2001年7月2日

セミナー通信　Vol．87　西村セミナールーム
主宰　西村　和彦

先生を選ぶ時代

先日高森台中学の授業公開に行ってきました。大阪の事件の直後であったのですが、「地域に開かれた学校」の流れにはブレーキがかからないでほしいと思います。

ご覧になった保護者の方はお分かりでしょうが、大人までもが引き込まれるような、よい授業をされる先生もいらっしゃる一方で、5分と集中できないほど退屈な授業をされる先生もいらっしゃいます。また、先生によって生徒は態度を変えますので、静かに授業が行なわれているクラスもあれば、ざわついた雰囲気のクラスもありました。

内容のある、充実した授業をすることも、整然とした授業を成立させることも、いずれも教師の力量が要求されるのですが、こうした授業公開が進むと、やがて中学でも大学のように生徒が先生を選ぶ時代がやってくるのだろうかと思いました。

生徒に選ばせると「騒いでいても怒らないやさしい先生」に人気が集まるかもしれませんが、「厳しくしっかり教えてくれる先生」に教えてほしいという生徒や保護者の方も少なくはないのではないかと思います。

私は、「授業はライブ」と考えていますので、舞台(教壇)に立つからには、自分自身は芸人として観客（生徒）を満足させる芸(授業)を企画しやりとげなければならないと考えています。そのためには事前の準備はもちろんのこと、自分自身のテンションを上げ、その場の生徒の反応に敏感であることが必要です。

以前勤めていた塾で、多くの塾講師希望者を見てきましたが、かなりの人が1年以内に辞めていきました。「学生の頃にやっていたから、簡単に教えられる」と思って来られた人に多いのですが、結局「集団授業で生徒を引っ張っていけず」に挫折するのです。塾講師と言えど、学歴や知識だけでは一人前になれません。「教える側」の人間には、何よりも「人前に立つ」という自覚が必要なのではないかと思います。

学校の先生にとっては、普段生徒以外に授業を「見られる」経験があまりないでしょうから、「見せる授業」には不慣れなのかとは思います。しかし、授業はやはり最重要の仕事であることに違いはないのですから、ここで「プロ」を感じさせてほしいと期待しています。

多くの公企業が民営化され、競争原理によりそれなりの効果がでています。学校の先生も例外でない時代が本当にくるかもしれません。